



(向井芳樹教授近影)

献呈の辞

向井芳樹先生が、めでたく古稀を迎えられ、二〇〇三年三月末日をもって定年退職される。先生は一九七七年に同志社大学に着任されて以来、文化学科国文学専攻に籍をおかれ、四半世紀にわたって、多くの学生の指導に当たられ、同志社大学の研究と教育の発展に貢献してこられた。また先生は、国際的視野に立つて、多くの外国人研究者も育成され、同志社大学の名を海外に高めて下さった。同志社大学国文学会では、先生の在職中のご功績を讃え、『同志社国文学』第五十八号を、先生の退職記念号として編集・刊行させていただくこととなった。ここに会員一同、感謝の意をこめて、本号を献呈させていただきます。

先生は、はやくから浄瑠璃・歌舞伎などの近世演劇の研究に取り組まれ、その成果は、名著『近松の方法』（一九七六年刊）に結実している。また木下順二の民話劇や中国古典劇の研究も精力的に推進されたが、それが、先生による『曾根崎心中』や『夕鶴』の中国版脚本の製作や上演にまで発展したことは、多くの人の知るところである。先生は、そのほかにも多くの演劇や舞踊の脚本執筆や演出を行なわれているが、先生の学問研究は、創作・実践と結びついているところに大きな特色があるといえよう。

先生は、文学や演劇に関する、広く深い学殖と、大人的なお人柄とによって、研究者や学生に敬愛され、大きな影響を与えられたが、それが海外の学生や演劇人にも及んでいることは特筆すべき事である。

さらに、学内においては、大学紛争時の文化学科学生主任・教務主任や国文学会会長などを務められ、本学の研究・教育体制を献身的に支えてこられたことも周知の通りである。

先生が、ご退職により学内を去られることは、まことにさびしく、残念なことである。どうか今後、従来通りのご助言とご指導をお願い申しあげるとともに、ますます御壮健で、ご研鑽を重ねられますよう、お祈りいたします。

目次

向井芳樹教授の履歴……………	1
向井芳樹教授の業績目録……………	4
『異本義経記』の展開とその享受……………	西村 知子（一）
——『義経記』変容の一過程——……………	
謡曲《高安》の背景とその行方……………	橋 場 夕佳（一三）
——伊勢物語注釈との関わりを中心に——……………	
五山の禪僧と「梅」について……………	黄 珣（二四）
『伽婢子』論……………	高 野 昌 彦（三四）
——怪異小説の生成——……………	
近松三姦通浄瑠璃の方法……………	早 川 久美子（四五）
——作中の出来事と主人公による自覚——……………	
『国性爺合戦』から『漢国無体 此奴和日本』へ……………	井 上 厚 史（五九）
——江戸時代における華夷観の変容——……………	
『女殺油地獄』の構造……………	白 瀬 浩 司（七二）
『新版歌祭文』『野崎村の段』の成立について……………	小 川 嘉 昭（九二）
『雨月物語』序文の朦朧たる諸点……………	李 国 勝（一〇二）

時代の変遷に伴う神話・伝説の変容……………	呉	艶（一一五）
-----------------------	---	--------

——七夕伝説をめぐって——

韓国の語り物パンソリ「興甫歌」……………	邊	恩田（一二四）
----------------------	---	---------

——語り手・流派・語りの継承——

読者との「腕くらべ」……………	真銅	正宏（一三四）
-----------------	----	---------

——花柳小説というジャンル——

同志社大学国文学会彙報……………		（一四四）
------------------	--	-------

Dulang UP's Replication of the Kabuki Play, <i>Kanjicho</i> ……………	Amparo Adelina C. Umali, III	（一七四）
---	------------------------------	-------

日本人のコミュニケーション能力向上についての一考察……………	平田	祐子（一八四）
--------------------------------	----	---------

——日本人の特性を考慮したプレゼンテーション教育——

向井芳樹教授の履歴

1 学歴

一九四八年四月 兵庫県立第二神戸高校（校名変更） 入学

一九五一年三月 兵庫県立兵庫高校 卒業

一九五一年三月 神戸大学理学部文科（組織変更） 入学

一九五五年三月 神戸大学文学部文学科国文学専攻 卒業

一九五七年四月 東京都立大学大学院人文科学研究科修士課程 入学

一九五九年三月 東京都立大学大学院人文科学研究科修士課程 修了

一九五九年四月 東京都立大学大学院人文科学研究科博士課程 入学

一九六二年三月 東京都立大学大学院人文科学研究科博士課程 退学

2 職歴

一九五五年四月 神戸大学文学部 助手

一九五七年三月 同 退職

一九六二年四月 西宮市立西宮高校 教諭

一九六三年三月 同 退職

一九六三年四月 帝塚山学院短期大学 専任講師

一九六四年四月 帝塚山学院短期大学 助教授

一九六八年三月 同 退職

一九六八年四月

帝塚山学院大学 助教授

一九七一年四月

帝塚山学院大学 教授

一九七七年三月

同 退職

一九七七年四月

同志社大学文学部 教授

一九七八年四月

同志社大学大学院修士課程 任用教授

一九八五年四月

同志社大学大学院博士後期課程 任用教授

一九八七年三月～七月

武漢大学外文系 外籍教授

一九九三年九月～一九九四年八月

中国戯曲学院 外籍教授

3 役職

一九八〇年四月～一九八二年三月

同志社大学文学部文科学科 学年主任

一九八八年四月～一九八九年三月

同志社大学文学部文科学科 教務主任

一九九二年四月～一九九三年三月

同志社大学 大学院委員会 委員

一九九六年四月～一九九八年三月

同志社大学大学院 国文学専攻教務主任

4 その他

一九八八年四月～一九九〇年三月

武漢漢劇院青年実験団 芸術指導

一九九〇年四月～一九九四年三月

武漢漢劇院芸術研究院 芸術指導

一九九四年四月

武漢中国漢劇院 芸術指導

二〇〇一年十一月

中国天津市芸術学校 名誉教授

二〇〇二年八月

北京市中国北方昆曲劇院 芸術顧問

神戸森女子短大・大阪厚生学院・武庫川女子大学・立命館大学・奈良教育大学・甲南女子大学

非常勤講師

一九八七年四月～十一月
尼崎市近松懇話会 委員

一九八八年六月～十二月
尼崎市近松オペラ脚本募集委員会 委員長

一九八九年四月～十二月
尼崎市近松市民オペラ上演実行委員会 委員

一九九〇年一月
尼崎市近松シンボルマーク選定委員会 委員

一九九〇年四月～一九九三年三月
尼崎市近松実験的事業企画制作委員会 委員長

一九九二年四月～一九九三年三月
尼崎市近松世界演劇祭基本構想策定委員会 委員長

一九九七年七月～一九九九年三月
尼崎市近松創造劇場企画構想委員会 委員長

5 賞 罰

一九八九年十二月
武漢創作劇コンクール特別賞『曾根崎殉情』

一九九六年十月
尼崎市文化功労賞

一九九八年十月
中国創作古典劇コンクール優秀作品賞『夕鶴』

一九九九年十二月
北京市建国五十周年文芸作品表彰 佳作賞『夕鶴』

6 所属学会 日本演劇学会・日本文学協会・日本近世文学会・芸能史研究会・演劇研究会・俳文学会・日本歴史文化学会

向井芳樹教授の業績目録

修士論文

一九五九年 三月 『近松時代浄瑠璃の研究』

単 著

一九七六年 六月 『近松の方法』 桜楓社

共 著

一九八〇年 三月 『昭和の隈取』全二巻、幻想社

共 編

一九七七年 三月～一九八〇年十二月 『紀海音全集』全八巻、清文堂

編 著

一九九〇年 三月 叢書江戸文庫11 『豊竹座浄瑠璃集』第二巻、国書刊行会

創 作

一九八七年 十月 『七夕幻想』 舞踊劇脚本 藤間遊子とむらさきの会 大阪・厚生年金会館

一九八七年 十月 『曾根崎殉情』 改編脚本 武漢漢劇青年 実験団 尼崎・つかしんホール

一九八九年 八月 『七夕幻想』 中国用改訂版脚本 藤間遊子 北京京劇院 北京・中国民族文化宮

一九九〇年 十月 『雲井太夫心中』 舞踊劇脚本 藤間遊子 大阪・御堂会館

一九九〇年十二月 『曾根崎殉情』 改編脚本 武漢漢劇研究院 北京・人民劇場

一九九一年 三月 『春の太鼓』 脚本（バレエ）小西裕紀子 京都・呉竹文化会館

- 一九九二年 十月 『曾根崎心中道行』 脚本 近松バフォーマンスⅠ（バレエ）小西裕紀子 尼崎・ピッコロシアター
- 一九九三年十一月 『待つ女（雨月物語）』 脚本（バレエ）小西裕紀子 京都・京都会場大ホール
- 一九九五年十一月 『シャバナック』 脚本（バレエ）小西裕紀子 大阪・近鉄劇場
- 一九九四年 八月 昆曲『夕鶴』改編脚本 北方昆曲劇院 北京・北京兒童劇場
- 一九九六年 八月 昆曲『夕鶴』改訂版脚本 中国創作古典劇祭 北方昆曲劇院 成都・人民劇場
- 論文

- 一九五六年 六月 「『今宮の心中』論」 日本文学協会『日本文学』五卷六号
- 一九五六年十一月 「近松が描いた俊寛について」 神戸大学国文学会『国文論叢』五号
- 一九五八年 四月 「『冥途の飛脚』の二・三の問題」 文学史研究会『文学史研究』九号
- 一九五八年 五月 「近松世話浄瑠璃における敵役」 日本演劇学会『演劇学会紀要』一二号
- 一九六〇年 一月 「近松時代浄瑠璃の論理と方法」 日本文学協会『日本文学』九卷一号
- 一九六〇年 五月 「身替りの論理」 神戸大学国文学会『国文論叢』八号
- 一九六二年 九月 「近松時代浄瑠璃の構造と方法」 近松の会『近松論集』一号
- 一九六三年十一月 「幸若舞曲『景清』の論」 帝塚山学院短期大学『研究年報』十一号
- 一九六五年 三月 「近松が描いた世界へ金」 至文堂『解釈と鑑賞』三十卷
- 一九六五年十二月 「木下順二の民話劇について（一）」 帝塚山学院短期大学『研究年報』十三号
- 一九六六年 三月 「近松時代浄瑠璃の思想と方法」 日本文学協会『日本文学』十五卷三号
- 一九六六年十二月 「木下順二の民話劇について（二）」 帝塚山学院短期大学『研究年報』十四号
- 一九六七年十二月 「忠臣蔵 七段目・九段目」 至文堂『解釈と鑑賞』三十二卷十三号
- 一九六八年 三月 「語りものにおける景清像の展開」 大阪私立短大協会『研究報告集』四号

- 一九六八年 八月 「木下順二の民話劇について」『夕鶴』東洋法規社『日本文学叢攷』
- 一九六八年十二月 「木下順二の民話劇についての序説」帝塚山学院大学『研究論集』四号
- 一九六九年 三月 「近松世話浄瑠璃の結句について」帝塚山学院大学日本文学会『日本文学研究』一号
- 一九七〇年 十月 「『国性爺合戦』事実と虚構」至文堂『解釈と鑑賞』三十五卷十一号
- 一九七〇年十二月 「木谷蓬吟の近松研究」帝塚山学院大学日本文学会『日本文学研究』三号
- 一九七二年 三月 「木下順二論」至文堂『解釈と鑑賞』三十六卷三号
- 一九七二年十一月 「演劇的視角から見た人形浄瑠璃」上方芸能社『上方芸能』二十一号
- 一九七二年 三月 「近松の時代物の発想と人間像」松竹演劇部『歌舞伎』十六号
- 一九七三年 四月 「開かれた終幕 木下順二の場合」テアトロ社『テアトロ』三六一号
- 一九七四年 四月 「義太夫のなかの王朝物」演劇出版社『演劇界』三十二卷四号
- 一九七四年 九月 「堀河波鼓」至文堂『解釈と鑑賞』三十九卷十一号
- 一九七六年 三月 「昭和の隈取」帝塚山学院大学日本文学会『日本文学研究』七号
- 一九七六年十二月 「俊寛の遺跡 二つの硫黄嶋」帝塚山学院大学『研究論集』十号
- 一九七七年 十月 「隈取に見る江戸ロマン」松竹演劇部『歌舞伎』三十八号
- 一九七九年 十月 「心中天の網島」演劇出版社『演劇界』三十七卷十二号
- 一九八〇年 四月 「忍び扇の長歌をめぐる」日本文学協会『日本文学』二十九卷四号
- 一九八三年 六月 「岸田国士」桜楓社『近代作家研究事典』
- 一九八三年 七月 「木下順二」学燈社『日本現代文学研究必携』
- 一九八三年 十月 「紀海音 浄瑠璃の全盛と歌舞伎の新展開」
- 「南北と黙阿弥」新日本出版社『日本の近世文学』

- 一九八三年十一月 「伊那谷と地芝居」 桜楓社『説話伝承の日本・アジア・世界』
- 一九八四年三月 「秋元松代・「常陸坊海尊」の雪乃」学燈社『国文学』二十九卷四号
- 一九八四年十二月 「曾根崎心中」論 女のドラマの発見 同志社大学国文学会『同志社国文学』二十五号
- 一九八五年二月 「近松時代浄瑠璃の劇的空間」『国性爺合戦をめぐる』学燈社『国文学』三十卷二号
- 一九八八年三月 「近松墳墓考 広済寺本墓説」同志社大学国文学会『同志社国文学』三十号
- 一九八九年三月 「出雲から半二へ」大修館出版社『講座日本文学』
- 一九八九年三月 「中国古典劇における「死」の表現」帝塚山学院大学日本文学会『帝塚山日本文学』
- 一九九〇年三月 「『孔雀東南飛』と『心中宵庚申』」同志社大学国文学会『同志社国文学』三十三号
- 一九九二年三月 「北京の「曾根崎心中」」同志社大学国文学会『同志社国文学』三十六号
- 一九九二年一月 「近松が描く女のドラマ」平凡社、別冊『太陽』
- 一九九二年六月 「文案と地方の人形芝居」世界思想社『浄瑠璃の世界』
- 一九九三年三月 「『曾根崎心中』」勉誠社『元禄文学の開花 Ⅲ』
- 一九九四年二月 「中国古典劇悲劇准劇「金龍與蜉蝣」を見て」康小青翻訳、劇本雑誌社『劇本』二月号
- 一九九六年一月 「中国の女方の現状」同志社大学国文学会『同志社国文学』四十三号
- 一九九七年三月 「昆曲『夕鶴』と女優・洪雪飛」同志社大学国文学会『同志社国文学』四十六号
- 二〇〇二年八月 「韓日語り物の比較研究」金明淑翻訳、全州ソリ祝祭学術討論会報告集

学会発表

- 一九五六年十一月 「近松世話浄瑠璃における敵役について」日本演劇学会秋季大会 京都大学
- 一九八五年十月 「『曾根崎心中』論 女のドラマの発見」日本演劇学会秋季大会 同志社大学
- 一九八五年十月 「近松墳墓考」日本演劇学会秋季大会 園田女子大学

- 一九八七年 十月 「中国古典劇の現状」 日本演劇学会秋季大会 同志社大学
- 一九八七年 十月 「中国の夫婦心中劇『孔雀東南飛』」 演劇研究会例会 大阪大学
- 一九八七年 五月 「中国古典劇における「死」の表現」 日本演劇学会春季大会 早稲田大学
- 一九八七年十一月 「漢劇『曾根崎殉情』について」 日本演劇学会秋季大会 甲南女子大学
- 一九八九年十一月 「『孔雀東南飛』について」 日本演劇学会秋季大会 龍谷大学
- 一九九五年 五月 「昆曲『夕鶴』と洪雪飛」 日本演劇学会春季大会 共立女子大学
- 一九九七年 六月 「中国古典劇の水袖表現」 日本演劇学会春季大会 成城大学
- 二〇〇一年 十月 「曾根崎心中の世界」 日本文芸学会大会 園田女子大学
- 二〇〇二年 六月 「韓日語り物の比較 山椒大夫の場合」 同志社大学国文学会 同志社大学
- 二〇〇二年 八月 「韓日語り物の比較研究」 全州ソリ祝祭学術討論会 全州伝統芸能大殿堂
- 講演

- 一九九九年十一月 「漢字―中国と日本―」 中国・広東大学
- 一九九九年十一月 「日本の漢字改革」 中国・華南師範大学
- 一九九九年十一月 「昆曲『夕鶴』について」 中国・中山大学
- 二〇〇〇年 九月 「漢字―中国・韓国・日本―」 韓国・圓光大学
- 二〇〇一年 九月 「『夕鶴』と昆曲」 中国・武漢大学
- 二〇〇一年十一月 「昆曲『夕鶴』と『夕鶴』」 中国・天津芸術学校
- 二〇〇二年 十月 「『傾城壬生大念仏』と『曾根崎心中』」 尼崎・近松記念館